

「豊かな海を守るのも漁師の仕事」

JF全国漁青連、今年は都内2校で出前授業実施

JF全国漁青連は10月9日、東京・練馬区立練馬東小学校と春日小学校でそれぞれ出前授業を行った。同授業は春日小学校からの呼びかけに応じ、2017年から毎年実施している。今年は練馬東小学校も加わり2校、合計117人の小学5年生を対象に実施した。

平山孝文JF全国漁青連会長、小笠原悠葵副会長、中村清作副会長の3人が出前授業の講師を務め、それぞれが従事する漁業の紹介を行ったほか、日本の漁業の特徴や魚を捕る以外の漁師の活動についても紹介した。



【日本の漁業を説明】

特に、今問題となっている海洋プラスチックゴミについては、日本各地の漁師が海底・海浜清掃を行っていることを紹介した上で、「みんなもペットボトルなどのゴミを海に捨てないで」と呼びかけた。



【海洋プラスチックゴミへの取り組みを説明】

子どもたちは、初めて会う本物の漁師たちを前に、目をきらきらと輝かせながら「漁師さんが一番好きな魚は何?」「一年でどれぐらいの量の魚をとっているの?」とたくさん質問し、学びを深めた。「魚と若い漁師、どっちが増えたほうがいいの?」という鋭い質問には、平山会長が「魚が増えれば若い漁師も増えるはず!」と力強く答えた。



【Q & Aコーナーで子ども達からたくさんの質問があがった】

授業の後半には、漁師の網仕事を模した恒例のボールネット作り体験を行った。子どもたちは、平山会長を「師匠!」と呼び、網づくりの手ほどきを受けた。

すっかり3人の漁師たちと打ち解けた子どもたちは、最後まで「師匠」たちとの別れを惜しんでいた。